

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
  - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
  - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
  - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
  - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立蓬萊中学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	講演会…全校生・教職員 300名 保護者10名 計310名 保健体育科授業…3学年 84名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育科 ) ② 行事名 ( オリパラ講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	スポーツのすばらしさやトップアスリートの高い意識と緻密な取り組みを実感させたり、国際スポーツ大会開催の意義について理解させたりすることにより、東京オリンピック・パラリンピックに対する興味関心を高めるとともに生涯にわたりスポーツに親しむ心を育む。
5 取組内容	○オリパラ講演会 リオデジャネイロオリンピック陸上競技三段跳び出場の山下航平氏（ANA）を招き、講演会を実施した。三段跳びとの出会いや、これまでの競技への取り組み、現在の目標とそれに向けた日々の努力についてお話しいただいた。





#### ○保健体育科授業（３年）

単元名「体育理論『文化としてのスポーツの意義』」において、国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割とは何か考えさせ、理解させる授業を実践した。「２０２０東京オリンピックの最終聖火ランナーは誰だ！」という課題を設定し、聖火の歴史やその意味づけについて資料を提示し、最終聖火ランナーにふさわしい人物像やその条件を想像させた。そこからオリンピック開催の価値や意義をとらえさせた上で最終ランナーを予想する活動を行った。



#### ６ 主な成果

##### ○オリパラ講演会

山下氏が地元福島市出身のオリンピックであり、中学時代に本校教諭の指導を受けていたことから、生徒は興味をもって講演会に臨んでいた。また、東京オリンピック代表がまだ決まっておらず、山下氏が今現在、代表内定に向けて試行錯誤しながらトレーニングや競技に取り組んでいる最中であり、山下氏の競技への熱い思いが伝わる講演会となった。受験や部活動での大会に向けて努力している中学生にとっては、目標実現のために課題や努力・工夫のポイントを明確にしてトレーニングを自分に課す山下氏の取り組みがよい刺激となった。生徒の感想には、「自分も目標に向けてただ何となくがんばるというのではなく、その内容をより具体的にしてみたい」「東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった」「山下さんを応援したい」というものが数多くあった。

##### ○保健体育科授業（３年）

聖火が地元福島県を皮切りに全国をリレーすることもあり、生徒は、聖火リレーの歴史や意味づけに関する資料や教師の話に関心をもって授業に臨んでいた。特に、歴代の最終聖火ランナーの資料についてはより興味深げな様子であった。自分たちの知る人

	<p>物から適任者を選ぶことは簡単ではなかったようであるが、世界平和や国際親善、人権尊重等の実現・進展がオリンピックや聖火リレーの役割の一つであることを理解し、最終ランナーについて考える様子が見られた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○オリパラ講演会 本校保健体育科教諭が中学時代に指導したオリンピックを講師に選定したことで、事前の打ち合わせがスムーズに行えた。また、講師に関して中学時代の様子を紹介しながら事前学習を行えたことで、生徒の関心を高めることができた。</p> <p>○保健体育科授業(3年) 聖火リレーが地元福島県を出発地とすることが決まり、福島市もルートの一部として選ばれる期待が高まる中、生徒の関心を高めるため、聖火リレーを切り口として国際スポーツ大会の意義について考えさせることとした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○オリパラ講演会 教職員等の人脈を生かして、ねらいを達成する上で適切な講師を選ぶことが重要だと考える。実績のあるオリンピックを招くことは意義のあることだが、たとえそうでなくとも、オリンピックに関わる様々な立場の人の中から人選しても効果的な取り組みは可能であると考え。</p> <p>○保健体育科授業 学習内容・課題をいかに生徒に身近なものにしていくかが重要だと考える。身近なところから課題を設定する、授業の中で身近なものにしていくなど、学習内容と自分の生活経験や知識、生活空間や将来の生き方とのつながりを意識させることが必要であろう。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>2020東京オリンピック・パラリンピックの実際の競技の様子やその中で誕生した様々なエピソードを題材や資料に取り入れて教材化し、保健体育科の体育理論の授業を展開していきたい。また、道徳の授業でも題材として活かしていきたい。できれば再び、2020東京オリンピック・パラリンピックに出場したオリンピックを招いてそこでの経験を語っていただき、スポーツへの関心や生涯にわたってスポーツを楽しむ心をさらに醸成するとともに、オリンピック・パラリンピックそのものの意義の大きさをあらためて学ぶ機会としたい。</p>